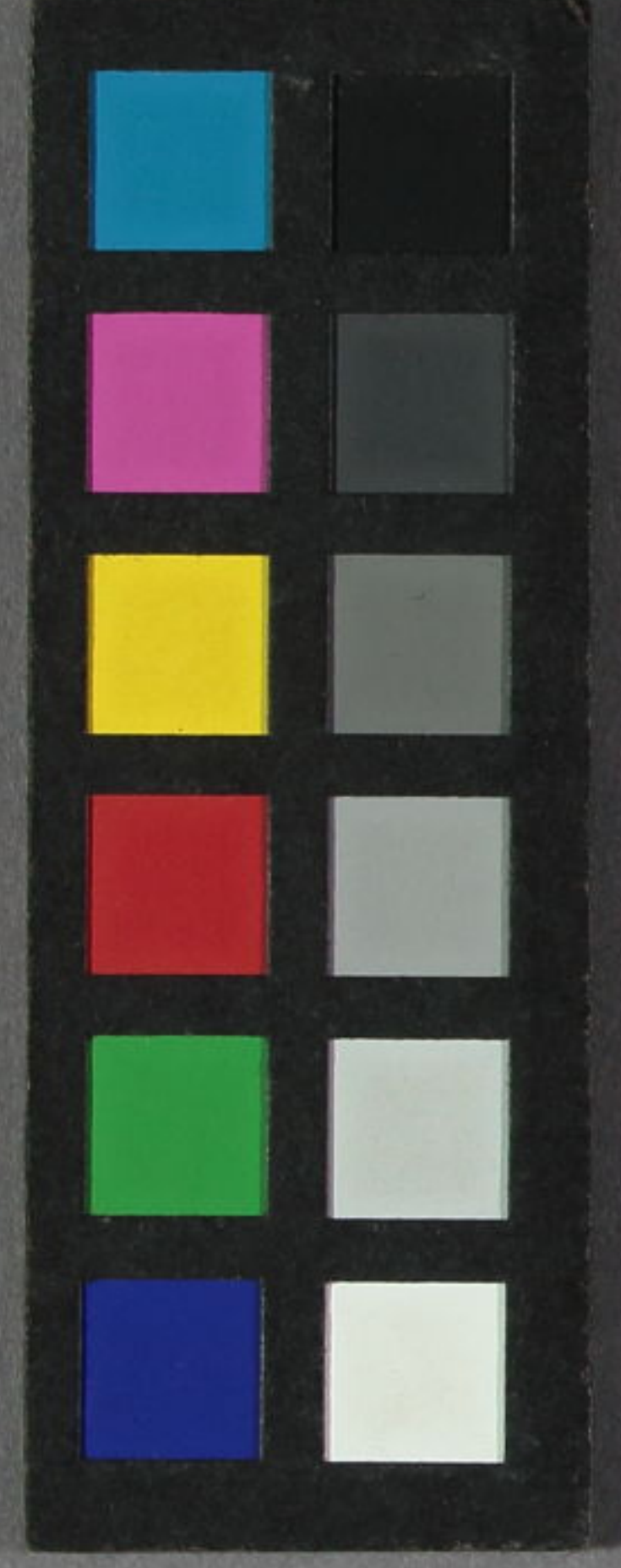


俳諧新々五百題

二



少のこ
芳野女

新々五百題下卷目錄

神祇之六

神 伊勢神 加茂神 七福神 稻荷 荒神

宮 祠 拜殿 花表 笠木 瑞籬

注連 幣 御手洗 神酒 獅子頭 神馬

奉納 神棚 宮守 祢宜 巫女 梓女

事觸 鬼 釈教無常之七

釈教無常之七

寺 山寺 辻堂 院 坊舎 伽藍

方丈 寮 山門 塔 佛 諸佛

| | | | | | |
|------|-----|-----|----|-----|----|
| 角大師 | 念佛 | 談義 | 江湖 | 五戒 | 六道 |
| 經 | 珠數 | 笈 | 僧正 | 遊行 | 僧 |
| 禪門 | 尼 | 山伏 | 薦僧 | 順礼 | 施行 |
| 放生 | 陵 | 塚 | 墓 | 髑髏 | 葬 |
| 哀傷 | 追悼 | 追善 | 年回 | | |
| 戀之八 | | | | | |
| 初戀 | 待戀 | 忍戀 | 逢戀 | 不逢戀 | 別戀 |
| 恨戀 | 春戀 | 夏戀 | 秋戀 | 冬戀 | 方違 |
| 寄源氏戀 | 長恨歌 | 王昭君 | 妾 | 傾城 | 遊女 |
| 傀儡女 | 舟君 | 辻君 | 男色 | 久留里 | |

人倫九之上

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|------|
| 武士 | 局 | 小姓 | 檢校 | 醫師 | 烏帽子折 |
| 関守 | 島守 | 船頭 | 橋守 | 門守 | 山守 |
| 野守 | 渡守 | 樋守 | 笵士 | 牧童 | 松葉搔 |
| 番匠 | 屋根膏 | 壁塗 | 木舞搔 | 疊指 | 鍛治 |
| 鑄物師 | 紺搔 | 紙漉 | 鞆掛 | 米搗 | 臼彫 |
| 篋作 | 扇折 | 表具師 | 鏡磨 | 元結 | 鬘屋 |
| 山人 | 杓 | 獵師 | 海士 | 塩搔 | 漁者 |
| 網曳 | 釣人 | 鳥差 | 鐘持 | 宿曳 | 作樂 |
| 馬医 | 博郎 | 馬士 | 牛飼 | 駕舁 | 髮結 |

| | | | | | | | | |
|---|-----|---|----|----|-----|-----|----|----|
| 桐 | 柳 | 松 | 木 | 田 | 鯰 | 鯛 | 船 | 龍 |
| 柏 | 楨 | 松 | 老木 | 畦 | 鰻 | 比目魚 | 守宮 | 鼠 |
| 椎 | 雁翅檜 | 檜 | 古木 | 畔 | 鯪 | 鯉 | 鱧 | 土竜 |
| 椰 | 椶 | 楠 | 枯木 | 反圃 | 雜噴魚 | 鮓 | 蟻 | 蜘蛛 |
| 檫 | 椶 | 杉 | 木間 | 林 | 鮑 | 海老 | 龜 | 虱 |
| 榛 | 棕 | 檜 | 梢 | 森 | 貝 | 烏賊 | 魚 | 蟹 |

田圃草木之十一

| | | | | | | | | |
|---|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 篠 | 淺茅 | 椶 | 迷懷 | 懷 | 春 | 春 | 春 | 春 |
| 篤 | 蓬生 | 蒼寄生 | 春、 | 春、 | 夏、 | 夏、 | 夏、 | 夏、 |
| 篔 | 蘖 | 草 | 夏、 | 夏、 | 秋、 | 秋、 | 秋、 | 秋、 |
| 竹 | 篔 | 芝 | 冬、 | 冬、 | 冬、 | 冬、 | 冬、 | 冬、 |
| 篔 | 篔 | 苔 | 旅泊 | 旅泊 | 旅泊 | 旅泊 | 旅泊 | 旅泊 |
| 篔 | 篔 | 藻 | 旅寐 | 旅寐 | 旅寐 | 旅寐 | 旅寐 | 旅寐 |

雜之十二

賀 婚賀 初老賀 半百賀 還曆賀 古稀賀

贈 答 画贊 回文 物名 杏冠 祝

草 枕 旅人 旅調度 餞別 留別 首途

春 旅 夏、 秋、 冬、 旅泊 旅寐

懷 旧 春、 夏、 秋、 冬、 旅

迷 懷 春、 夏、 秋、 冬、 閑居

八十賀

米字賀

九十賀

百歳賀

八十一賀

新々五百題下卷

田喜菴護物輯

○神祇之六

| | | |
|----|---------------|-----|
| 神祇 | 以春や横川へのあふいもの神 | 蕪村 |
| | 神ある杉野の若極年富里 | 保吉 |
| | 市神の槐や木は妙ぬ支離枝 | ひる彦 |
| | 百の神磯ありのまる名月を | 乙二 |
| | 秋風や後るれさらく藪の神 | 梅室 |
| | そら神は巻くもむし飛雲 | 一肖 |
| | 水のくと打出は神乃藁か | 詠師 |

煉じぬやむのふ集しをむ里神
 煉とつとて此礼やさん井戸の神
 小集より嘆喩世の神や雲の神
 霧も鳥も空を走り神路山
 夕明も二月ありや神路山
 神風北あつりるあやうあ月
 舟入を杉のせをりり神路山
 終むしやゆるるをりり神路山
 神垣の内外よりなる四月か
 加茂へ来りて接火の所はもまはれり
 一 蕙
 露 谷
 樗 堂
 卓 池
 一 具
 一 肖
 叢
 千 賀 子
 木 木
 乙 二

加茂社

上加茂へふと集りて夜冬玉は
 加茂下上庵やまをり日ふ色り
 人丸も鯛もあれうしあ 夷
 菊菊もより遊十日の市はま
 大黒天あり候るは松を引をり
 種徳も子供も色り日法白ひ
 所杉や群てまゆりや番下し
 月あもあはれりうさぬめは掌
 常替の替もあると落し角
 福天の所息もかれ玉の集
 蒼 虬
 護 物
 巢 兆
 巢 兆
 素 鶴
 巢 兆
 星 谷
 巢 兆
 護 物
 巢 兆
 全

七福神
恵比壽

大黒天

毘沙門天

壽老人

辨財天

福祿壽

布袋

稻荷

陣くく梅子ちちあや福祿壽

旅俗を布袋うとうー車の水

薪部屋の隅のひらり此も楓

氏花聖の落を土手のいなり

りきやうふいなり此敷の巢をう

杉むくやいなり此裏の冬を桂

荒神

荒神の杉も男れぬ雲より

夕系乃や孫をりきり電神

まきまき荒神松の休みより

陣や荒神杉を壁の眉

全

全

みち彦

詠帰

東里

菅里

乙二

草夫

梅室

既飽

宮

うらひもふ起まけまを宮せめ

うらひもあは馴るる宮居の形

花雪の掃除あはるるはまうら

夜咲て人あはるる一原の文

雪のまほのそくや松のる

祠

小社と栲と赤一森の中

雪舞や石の祠の葉盒子

野の来てあはれ祠の染水

雪う舞のとりつひて咲祠の形

小祠のるはあはれや麻をうけ

恒丸

月臺

孤米

寛雅

良女

梅室

涼谷

杉池

豊女

まろ紀

| | | |
|-----|---------------|-----|
| 御手洗 | 御手洗の月を牽けや萩の露 | 草雅 |
| 御手洗 | 御手洗の魚のうらりやよみ | 逸水 |
| 御手洗 | 地中へは帯りく来るや性や | 確嶺 |
| 御手洗 | 初夢や帯きくくる伊世の馬 | 田都喜 |
| 御手洗 | 和のむとふぬるや垣の帯 | 蒼虬 |
| 神酒 | 春の香は神酒は酔くる朝の光 | 梅室 |
| 神酒 | 村中へ神酒は帯りや菜の香 | 詠帰 |
| 獅子頭 | 春風や法方かきくは獅子うら | 士朗 |
| 獅子頭 | 菜の香の中やまふりつ獅子は | 乙二 |
| 獅子頭 | ハ朝や塗の如きくる獅子うら | 卓池 |

| | | |
|----|---------------|----|
| 神馬 | 新ひや春の獅子の踏例 | 一具 |
| 神馬 | 獅子舞のちとせりやうはむ | 桃五 |
| 神馬 | 春丸へ神酒は能る和月は | 士朗 |
| 神馬 | 正月や夏よりひあはれ神の香 | 風芝 |
| 神馬 | いさかしく神をひくや大世り | 詠帰 |
| 神馬 | 引出は神をいさかや香の露 | 名澄 |
| 神馬 | 牽きめや新代橋も神の馬 | 露谷 |
| 奉納 | 借屋戸神社 | |
| 奉納 | 神あま権さくくを咲さくま | 白雄 |

熱田踏歌 正月十日

日よハ梅枝より柳をうらみか

士朗

熱田宮

とらう木のこゝも一葉茂きは延宮

みん彦

住吉四社に待す

宮とくくく一ちのまのくく老くけん

全

宮嶋

薫風やうらうらまうのら巖島

蕪村

むつまうきくまの柳や梅やちん

月丘

柳を柳縁よりゆるあけ守柳

茶静

宝引や神柳の灯の一生変

獲物

神棚

宮守

宮守のくれの支度や木匠のお

ちん記

宮人の良きくくふくれ聖代

芥鉞

宮守の古い鳥居のくくく

春路

神主の差圖の中なる田うき

露谷

はくまうく祢宜てくみ麻は後う

蕪村

祢宜との馬もくくれは麦の秋

乙二

祢宜との囀りまの櫓の岩

如泡

新若きや祢宜もくく一坐安

沙月

あややまのくれを祢宜う家

寛雅

巫女

木枯の押通てりや伝儀巫子

扇暑

| | | | |
|----------------|---------------|---------------|----|
| 鬼 | 事觸 | 梓女 | 呼牛 |
| 花盗むんを鬼てかたりりりき | 子福のちるさくさくを梅のむ | まのしを梓とのそく角力なる | 桐雨 |
| 鬼あひむるも回し急のめま居か | 子福の一むき帰るゆれうな | 梓さく、坂の角さその柳や | 應 |
| 玉光 | 且翠 | 梓さく、表生表やかりのむ | 一具 |
| 葛古 | 護物 | 淡水 | 春路 |
| | 抱儀 | | |

○釈教無常之七

| | |
|---------------|----|
| 寺 | 藤枝 |
| 中地うら群ふまけりり鬼あひ | 推篁 |
| 黄毛よ門の終り鬼乃除 | 越児 |
| 玉光 | 一具 |
| 葛古 | 女彦 |
| | 藤枝 |

山寺

木芽しく冷ききち花ちりし
 紅梅や露あるとかたきちの縁
 梅叢や露の白出とちり垣
 山寺や朝の午初 五月雲
 山寺や晴子さされて衣更
 山寺や門をひいて時香
 山寺や忘れと色色を逢梅
 山寺や庭の晴くも交暮る
 山寺も磯くくくある汐干
 山寺へ登りておる法あり

茶韻
 川峨
 秋兔
 蘭更
 巢兆
 樗良
 在元
 寛雅
 みる彦
 南壽

辻堂

院

坊舎

辻堂の月ハとをいも夕くつ世
 辻堂く二日けはある四くある
 初宮や院くくもまきと冬 院
 院初や院の棲りまきと白く
 多座の集もわの集はまきと興の院
 二の日の棲のさくや興の院
 梨子の知さくや季次の坊く庭
 惟子をうけてあせり坊く書
 本屏のうれても白く坊く書
 合款標さくやまきと谷の坊

の風
 護物
 月居
 玄蛙
 一蕙
 千輅
 みる彦
 谷雄
 小圃
 春路

伽藍

うらひしや七巻伽藍字法系
涼しやと云多しゆく伽藍の
雪のかきじゆくくの採めたる
日の筋はまをる伽藍の塔の多
さひしやや灯より虫さへ来ぬ伽藍
方丈のたまり水仙やうめ法
方丈の碓の毛の白くお茶うま
方丈の秋枯川より庫裏の楮
方丈のお極言よりうまのち
うらな合ふ群の手先や寮の尼

椿堂

五芳

田都喜

五岬

午乳

こち彦

梅室

乎馬

寛雅

召波

寮

山門

なごつやあつあつとありの寮
山門へ葺くは雨よ巢もつりあ
山門は西日の向ふ法生より
押中より塔一を心のむのち
塔をとり一里を来り春の月
塔のうけ言よりれ聖の水より
塔をとり方よりを八層なるむのち
葉のあやむる葉中なる塔はつり
氷りて、秋庭も置たり佛の葉
そのいそぐ海を佛よおのり

太良彦

梅室

巴流

巢兆

一肖

梅老

多代女

木木

東芽

弗水

佛

塔

諸佛
 背抄日佛かゝるく小春小
 夕白やまきり佛の仮の宿
 常を吟もくく藪の仮の那
 春をきく地蔵の法手は春
 五月面や鬼洞干以家は油
 水仙や山より不動の戸のあく日
 雲降の法龜初を春一春の月
 如言描の鳥はわかたや友の花
 早乙女のさひひらくく南大師
 乙子もちりあふ南大師

笑九
 塞馬
 田美
 乙因
 乙子彦
 世南
 卓池
 龜蓬
 卓堂
 女
 龜丸

念佛
 夕白り五砂きん南大師
 花本権宿をそ宵の春仏也
 春仏はぬくこのくつる蕭条也
 明月や春仏はすもおひる死
 念佛のまきくまはあおきん
 春曇をきく法義の証う吟
 種前も流く在ふる屋法義
 芳葉や江船は舞舞法面の蒼
 初をきく吟や海手の江船ち
 猪罌の濁も流るる秋の空

茶静
 斗入
 秋举
 茶静
 應
 小圃
 圭洲
 古
 政
 一肖
 北冥

五戒
 殺生戒

全 邪婦戒

浮巢あつと叫跡しるま薪汁
来ぬをすこまされし淋を面虫
女帝おこしく聖あいつく子枕
おのぢ死とめく喉や毒は月

菊角 護物 詠婦

全 偷盜戒

おのぢ死とめく喉や毒は月
花折も切りまぬ枝ゆれの竹
玉ふんちまもひらまき子の家
木おぢとけさく一重り初ぬ毒

其堂 護物 北冥

全 忘語戒

きんくひようめく毒の虫あれと
茶よと思つてまうり葉のよぢ
酒うけく娘がかんひ毒あれうり

護物 露谷

全 飲酒戒

酒うけく娘がかんひ毒あれうり

護物 露谷

六道 地獄道

考る湯の中しよろろや毒の翳
山蟹の温泉壺に落ち跡をた
羽もぬれぬ水乞ふは異りな

りく風

全 餓鬼道

とろり子や虫はさりのきお毒の鳴る
去ろろや魚の骨うむ盲夫
秘花猫身を知る角不潔さうり

露谷 保吉

全 畜生道

秘花猫身を知る角不潔さうり
初小まや友うい破るまうり次
妻うーあう其毒を獲るまうり

五明 保吉

全 修羅道

妻うーあう其毒を獲るまうり
人の世や毒多き比の初りま
人の白と初りハ毒一難れ里

露谷 保吉

全 人道

人の白と初りハ毒一難れ里

東峨

天道

經

下州

北

笛の多ふ雲井の風の薫るく
秋のふは清くく月の鏡外
露谷
車来

普門品
觀其音声

閑てくも目より此より是をの家
午心

皆得解脱

深くく清くくけくを松の福
諫圓

即得淺處

核桂少のぬも嘆より多
完来

衆人愛敬

喜も喜もつる清くくわの山守り
對山

火既變成池

ゆえいつる蕨あゆむる清くく水
守三

住如日住虚空

ゆる眼よりハ立るをれも不二の重
護物

寂然得解脱

人間よりたありあは裸虫
寥松

還着於本人

ありうのる喜やむつきをかよりり
北元

時悉不敢害

喜をより清くくハおのほよりり
確嶺

廣修智方便

夕立や笠うりかきも工風をそ

成美

無利不現身

阿修祇の梅のうさや月一ツ

大梅

悲觀及慈觀

衣室のそとやあをまきかむ

有月

慧日破諸闇

簑ありふ能野をそまはる

松欣

衆怨悉退散

多る屋の目も花のりや中野の果

樂只

梵音海潮音

耳そけ画くる腕も初々法

ま彦

念く勿生疑

陽空を所ひぬ日ハありまの草

不尽

提婆品 竜女成仏の心を

風をやむりおはあさりの糸柳

みち彦

如是本末究竟等

いさるもや水もいさるいと静

茶静

即心即佛

々化してそる本ありし蜂のま

護物

各留半座乘華墓
待我閻浮同行人

君来よとす意分りりもるむり

一具

珠数

珠数をくくるまうら月をくぼの時

屋鳥

珠数のつと動いともあるり

雨塘

珠数くまを空花よりくや山のる

黙巢

笈

笈居くま日月存む河原か

古樂

笈居くま右歌をねまは約感帳

夜鹿

僧正

孝秋や僧正りたるちの格

一具

くくひまや僧正のまを離色兼

汶水

僧正のあまの初りまよ

篋

一蕙

遊行上人

りの楓並りのま一あまの庭

みら彦

尾あまや聖ハ並りの園うり

護物

僧

赤僧をままハ難のなまひうり

曉臺

卯のむやまままま不殊の僧

月底

連まうり僧運まもる小妻のる

葛古

老僧のそまられたるを雀の子

表丁

紫谷は僧もまゆや花の角

箕山

旅僧

旅僧の月と連まの聖中か

まら死

園裁く来る旅僧や妻の角

真侶

旅僧の初まらまら白つ

淡水

禪門

禪門の故きうはあらは標うる
 裕着くまのうけと兼門
 律門のふと兼う法甚う那
 尼う戸のまぬうるまゝ兼
 初と兼や宿さうさぬ比丘尼ち
 法務む尼もあまうりやさうら
 要ちうは尼前もさゆる兼
 山伏のうゝ定めうまのし雲
 山伏のまのうら村や藍のま
 四五人の山伏さぬ字のま

山伏

梅彦
 梅室
 涼谷
 其来
 真澄
 妙扇
 茶静
 可都里
 芦舟
 詠帰

薦僧

山伏の門も極るやまきう那
 山伏は灯をさうさぬ木立
 薦僧は馬うと里のうれ
 兼や薦僧さ法度書
 薦僧ハ兼小疎さう夜のお
 順礼や二王のまは縁を位
 順礼の首まうけたる様う那
 順礼の子もあまひうり杜
 屋あま流りままや梅の門
 君う代の米まらま流り

順禮

施行

真侶
 谷雄
 車来
 青龜
 保吉
 素丁
 孤米
 丹嶺
 詠帰

放生

施形心く翼庭ひらく

護物

放生

放生の鯉こゆるおおとま

道彦

放生

放生のおもあまを

護物

陵

放す時月くおとれ魚と水

蓼太

陵

えりまきの松あゝるい池の鴨

卓池

塚

陵もわくし祭の翼やもは

露谷

塚

田中の塚の茂りや若くは

と彦

塚

垣あほい庚申塚やま木立

草雅

墓

おのちやとせのうゝの若くは

良女

墓

心くくちや墓もこり墓の松

蝶夢

稚子啼くや火葬こりん松の墓

与人

墓の松あまをくくくの時るり

多代女

古墓や麦生おまを

了く

よりまをやよりけある墓田ひ

露谷

髑髏

一休り二日ちる人

保吉

夕白のそれろ髑髏う

蕪村

いなる葉や福髑髏く

露谷

葬

菜のちやま色り葬の人

曉臺

夕く中や荒葬るめく

几董

葬礼の田中をりやまの峰

道彦

根

華の火のききそく山根の照射小

塞馬

追悼

悼友人吐燕

友葉の葉とくうぬ恨ううね

白雄

書を失ひひく人おぼゆる

わきまられぬはなはなの大桶うま

士朗

悼家猫

土火赤いく秋撰ても毛ハをくん

巢兆

斗入身やうりりたる候儀の陶
七うりは温泉とくままよりりて
こまをとおあひたる

惟茂と同一 煙やつむ落葉

全

母の身やかりぬひく時

とりついで只子んやなぬ 乙二

書を失ひたる時

故うむらの葉を掃らせぬや窓の秋 帘風

悼友人

亡き人ぬり又入るなやなぬ 月臺

毫子をうしあひたる時

よくとまらるや亡き子の眼を付し 魯仙

悼金令翁二句

なき葉や墓の日向もいうをうりて 悼歌

盗古や春も置あえは秋の暮 護物

悼梨翁居士

春あけうとうかどり月を朝の山 全

冠山君へ寄る
いとけなきに眠るのころれさそあふ
は秋をいひみゆきとの情あつとを
かあまのやわらさき

月をく羽子板うらも泣日か 全

柳莊追福

月をらんまあとも出さやを念仏 巢兆

椿南追善

呼くもあはれを入函のき 月丘

追福

無説追善二句

影霧の佛とあはれむつとやし みち彦

とく何えは送り生禁ん粥の葉 護物

みち彦追善

明るとくくくくくくくくくくく 茶静

五芳一莪の墓のあはれを

茂里谷小根のせつらある露谷 露谷

宰馬々一周忌

花を此中もたふ日ハめくくか 曉臺

曉臺一周忌

年回

身はちやきと老や都のまのまの 士朗

白雄坊十三回忌

おまをの尖りもあれ思ふ日そ みる彦

同 廿三回忌

うそとくも物ほはらうり 白雄来 今

若極家の成海花り 引そい
まわしせしもちや一めらうそを来ぬ

いそりねく様も底うやうの法 一肖

老母の一周忌

侍の何より老のそん雪の杖 護物

甲斐百二居士七回忌

老のそん人の昔と眼の前よ 全

○戀之八

初戀 初恋中打簞よとる 恋と白 太祇

帷子や田植きよう 恋もある 嵐外

ちつ恋よ袂よりあまる 恋はる 越児

待意 ちつ恋の先寄つくる 恋きりか 吐月

待恋の翌はあうくる 柳うなる 巢兆

子子よ脊あやうくれを曇るはる 輪之

下

忍意

初雪の初下結する志のひは
志のひは山吹のうけ警り
君ある志のひあさよ二日冬
志のひはあさる家ありるの月
凍て来し手足うれしく逢春
雪ふりハ雪、陸雪の名は
梅雪しつのも雪ふは燕衣
宝川の雪は色はく何れぬ衣
斤思ひ遣しも何れぬ衣
雪飯や何れぬ衣は明の雪

樗良 暁臺 無智 谷雄 儿董 醒夫 田都喜 儿董 青蘿 冥く

不逢意

逢意

別意

春意

雪の結あをぬ意もは
れ雪し雪も出口のうしり
時をうしり雪は袖に
雪もあをぬ意もは
り雪は割雪もあは
鬼灯やいもぬ恨を口のう
あさる木も恨のあさる氷柱
うたへり雪もあさるあは
控本も雪もあさるうたへ
仇人も雪もあさるうたへ

田美 素因 少汝 千影 輪之 蝶夢 麻父 乙因 白雄 吏登

秋意

人々つらき秋意はいつか
思ふ人より風のそよかぬ
思ふ人の心は水鏡に
影のよきはつらき秋意はいつか

春鴻 獲物 茶静 多代女 几董 乙二 駒道 瀬更

夏意

我はつらき夏意はいつか
思ふ人の心は水鏡に
影のよきはつらき夏意はいつか

几董 乙二 駒道 瀬更

冬意

妹はつらき冬意はいつか
思ふ人の心は水鏡に
影のよきはつらき冬意はいつか

士朗 可都里 黙巢 抱儀 几董 檮堂 寄淵 田都喜

方違

方違はつらき冬意はいつか
思ふ人の心は水鏡に
影のよきはつらき冬意はいつか

春路 星谷

寄源氏恋

和のぬのなききけのや方々い

獲物

東のつゝあまきしほの灯さくあは

輪之

梅あはるや交聖の無も云自末

獲物

長恨歌

去りしるあはれ毎の涙うけ

露秀

うつゝあや流のこゝろ秋のりせ

冥々

袖のあはれはるや月ああり変

不知作者

王昭君

昭君うきとくや厚とけ遠い

詠婦

菊は降し人うらを馬の土

淡水

妾

暮らさく人あまきりあひりの

召波

信着てあをいさくうら

曉臺

傾城

憐あはるや登の陽あひる 妾

壺半

梅回りし妾はしをとりけり

茶静

山あきや色とけあまき 妾

夏桂

傾城あはれ後の世うけくおん

蕪村

傾城のわうみくあは涅槃

青蘿

り幸や古傾城のちりてあま

児童

傾城は葉もあまきりあはれ

巢兆

小宿は傾城あはれあまきり

梅室

遊女

葉のあやあまきりあはれあま

蘭更

茶山あやあまきりあはれあま

あまき

| | | |
|-----|--------------------------------|-----------------|
| 倭假女 | くつりも新ハあせり秋の風 夕日てる倭假の鳥や秋のうせ | 柳莊 |
| 舟君 | 舟君の位教ゆる火神のち 舟君の意地は所のむ右衛門のち | 和風 蓼太 政久守 |
| 辻君 | 辻君のちかたの秋のそん来はな 辻君の手拭ふし露をくする | 露谷 詠帰 |

| | | |
|----|-----------------------------------|-----------|
| 男色 | おとこもいふおとこのちかたのち わらわぬるもさつとつものちを | 児童 みち彦 |
| | 海棠や小舟柄控し寺小姓 紅梅のちなは小姓の目とてん | 多代女 護物 |
| | ふんちやてんちとてんちとてんち 梅さくや赤松さくさくさくさく | みち彦 寥松 |

○人倫之九上

武士 下
太抵

鳥帽子折

子親鳴りや出てけりあかりけり
秋の月のさきさき名もあかりけり

谷雄

関守

関守のうねて浜のむし柳うら
関守のつらさあさやまこれ空

一首

少補控く実あうそる月夜秋

春路

関守の空もささかき蓄うら

夏桂

島守

島守の伏家もささかき蓄うら
島守の伏家もささかき蓄うら

伯光

船頭

船頭の伏家もささかき蓄うら
船頭の伏家もささかき蓄うら

獲物

紙衣イカネ

船頭の伏家もささかき蓄うら

涼谷

船頭の伏家もささかき蓄うら

田都喜

船頭の伏家もささかき蓄うら

露谷

橋守

橋守の伏家もささかき蓄うら

召波

橋守の伏家もささかき蓄うら

南馬

門守

門守の伏家もささかき蓄うら

良女

山守

山守の伏家もささかき蓄うら

芦舟

江月

黙巢

獲物

芦舟

良女

南馬

召波

露谷

田都喜

涼谷

少きう痛きう露子とくれりき

草雅

野守

初しづれ野守り骨のよき

士朗

初午や野守り骨の内徳あり

葛古

渡守

女名る妻小名妹や候し

太祇

降ふるやまをこころて候し

蘭更

川名の瘦魚とてぬわし

甫山

名有や柳とくくふわし

雅篁

樋守

初冬や樋守り骨の小餅汁

芦舟

河骨や樋守り骨長くし

有記

笈士

いゝとちよ是のとくぬき

太祇

笈士の塚跡とて命り

几董

笈士と連糸や笈とく日よ

素鶴

牧童

子菊のくく手とてり

大巢

子刈の転とてり

碩布

子うりの聖ハ森の聖風り

迦孫

松葉搔

法大蟻の子付ひ鳥や松葉搔

寄淵

さく花のけもとぬや松葉搔

一樓

於山や花のけりりの松葉搔

真侶

番匠

番匠とてり

椿堂

陽春は世り明くれや老大工

素郷

下

三

省吾
一具

詠帰
呂波

屋根菅
みち彦

豊女

壁塗
保吉

露丸

木舞檜
甘月

一具

護物

畳指
月臺

田美

氷帰

其翠

護物

宗讚

銀治
屋烏

首丸

政二

下

三二

上

鑄物師

とそこい崎や瀬谷屋結うとひあ
夢の種の新くむ秋や漆うけ朱
車来 輪之

紺 搔

漆うけ紙の紙下紙庭や梅の紙
紺うきう掃落うくれや如林掃
几董

紺うきうの古紙ひうけや秋の古
山欠く芍薬植る紺屋小
六倉

初年の古ハ紺屋の掃落紙
初風や紺屋う門の初 憾
大梅

帛 漉

帛糸の秋ハ出歩り雪うる
紙漉もる乞あられや並落る
成美 淡水

籬 掛

糸の紙や紙下紙板は漆む家
紙漉のひくいかさや掃り紙
史遊 護物

夕鳥や籬うけ泊る糸をひ
籬うけのむくろ紙うけの紙
多代女

米 搗

籬うけ紙あを掃り月見紙
米搗の文をうりる葉葉うる
良女 露谷

あろるき米搗とのよあわれ梅
米をつくき不落るる木槿うる
太祇 蓼太 迦孫

米着のふちとまのやまのる 小圃
白彫 花よそとこやまを優し 白函し 彦

白彫のさめし 時や 落 楳 古翠
白彫の日あふまをるをまうな 秋菜

籠作 花中らやうそりくと 葵亭
夕うむや層掃うける籠つくり 護物

扇折 佐保姫のまをりこゆや 扇折 且々
扇折人ふうらんまの 夢 卓二

おののまの汗をい知るを 扇折 霞江
星の秋をゆひも来よ 扇折 良女

表具師 表具師のまは法呵まの 几董

鏡磨 表具屋の夕飯をやまを 一具
かみ磨古町のそく 扇折 巢兆

元結 此さやや屋とこをまの 椿堂
表のあふふのまをり 扇折 迦孫

元結 彩き日やを法こまの 梅塙
鬼灯やうの境あまを 松黒

鬘屋 字お茶え法あふのつまを 菊角
屋うはま門あうへうり 秋拳

鬘屋 鬘屋の灯うけも星を 護物

山人

子をりぬ山人をあり一芒刈
山人あり青森にふるありその川
山人のよひつゝむの本湖のり
うらひをふまや山人の大木むく
蝶ありや日のさく松のかり柱
夕暮れや岩道は清身の松の虫突
獵男あり火のさきや男若時
狩人の羽ありき杖も氷のさき
山菜ありや狩人も來市の朝
獵人の初雪ふまふ秋の山

泥中

一肖

星谷

久藏

甘月

護物

恆丸

木雄

北園

雪老

獵師

杣

海士

漁者

暮子獵男の母の森見えのさき
養の焚火のさきえはるしと雪
海士うねまねお海も志のり地
けまやや養の羅のおとろ
海ありて養う子くるる落うま
春風や養う小舟の朝仕事
塩うまの歌のさきや雪のさき
塩うまのさきをさきさきさき
塩うまのさきをさきさきさき
秋うまのさきをさきさきさき

露谷

方明

騏道

葛三

世南

月丘

太良彦

菊角

碩齋

蕪村

| | | |
|----|----------------|-----|
| 宿曳 | 素のりとうり此宿川意む板小 | 多代女 |
| 伯樂 | 宿曳の練は成るや冬の塊 | 茶静 |
| 馬医 | 伯樂の鍼は血をんるを聖小 | 小圃 |
| 博郎 | 伯樂の御もいよゆる柳うま | 田都喜 |
| 馬士 | 四角の日よとあくる医の家督小 | 曉臺 |
| | 馬送者を上住まおくや花の宿 | 谷雄 |
| | 博郎の口入はるや春さ秋 | 季珉 |
| | 馬士も跨もやさく月のそ | 啓山 |
| | | 榛堂 |

| | | |
|----|----------------|----|
| 牛飼 | 馬士の巾着あをれく木下雪 | 一具 |
| 鴛舁 | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 谷雄 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 春路 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 護物 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 午乳 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 可景 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 夏桂 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 葛古 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 垂半 |
| | 鴛舁の舟あそぶ生う所るそ子規 | 南壽 |

| | | |
|----|---------------|-----|
| 鬘結 | 鬘結の紐を足すは連日なる | 連志 |
| 市人 | 市人の物うちうらふ聖分 | 蕪村 |
| 商人 | 市人乃あつてさうり交本立 | 召波 |
| | 市人は袖さうり通て字のや | 宇橋 |
| | 市人の袖さうりひり柳うら | 田都喜 |
| | 菜のやや和泉河内へ小島ひ | 蕪村 |
| | 花さうりや和泉河内へ小島ひ | い |

| | | |
|----|------------------|-----|
| 杜氏 | 梅の本と五反ありのや小島人 | 汶水 |
| | 数の子や菫の杜氏う自分家 | みち彦 |
| | 梅さうりや伊子の杜氏かや小島 | 一具 |
| | 初代や目とえは小島杜氏 | 涼谷 |
| | ハ穀の小都屋出来さる杜氏うら | たる祀 |
| 酒賣 | わの菜おとよは梅のほらり出初るり | 暁臺 |
| | 酒さうりや来ひある書は菫のり | みち彦 |
| | 酒賣ハわさうりぬれは菫のる | 車来 |
| 樽拾 | 新島の第目あむや樽拾ひ | 烏頂 |
| | 夕敷の門も足初る樽拾ひ | 寛雅 |

酢賣

菘を煮て酢賣の通る田植りな
まの酢を吹通して通る酢うりな
まの膏の酢うりよひこむ磯船
魚うりの中いそぎよる魚うりな
肴屋まをのき出来し四月うり
年玉やわら菜うれる肴うりな
魚うり仕舞少くゆり柳うり
麦粉や畑で酢あそく肴うりな
をうりよわ塩賣のそくまの鯉
塩うりの二三の出来ぬうりな

谷雄
車来
舟静
名澄
大梅
斗慈
春路
護物
保吉
車来

肴賣

塩賣

古手賣

花賣

塩うり此塩は厚しり夏野
飛騨の小里ふ入るや古手賣
枇杷さくや下結をいそる古手賣
志々丸や結もつうぬ古手賣
古着屋の女房しりぬ難うな
初年や花うりも並ふ山の口
花うりもあま世のめはる花うり
山里や桔梗をうりて賣ふ来り
昔をよそくお賣りな
毎月や花賣りな来り小百姓

角
角
奥
迦孫
真侶
禾木
保吉
みら彦
葛
西月
芦舟

下

三十四

放下師

まひくうあつこくおの終 月 ちち彦

放下師は市の川へ出る 二月廿 くと法

放下師は手とりも初ふりあいの五 弄山

松うけは放下果とて後乃くく 致山

放下師の總張りくは折くま 禾木

脱うけの袖や花見る舞子とも 呂波

まをまやまれおある白梅子 几董

竹青やかこのゆらむ名拍子 みち彦

梅色く春はくくは白梅子 炉扇

戯場

ハ舞や舞子くくくく 縁芝居 涼谷

琵琶法師

頼中くくくや舞舞妓の二の初り 茶静

春唄のまろ吉松外や西馬は法 几董

門くくの巻もくくや西馬は法 護物

埋くくや舞舞妓これくる坐の坊 米友

りち播や例くくく来る坐の坊 壺半

くくくと坐の舞まくり為番者 真侶

石拍子お坐の舞はやまの中 護物

法くくまき八人のふれ梅乞食 士朗

乞食の歌は舞舞妓の入りくく 孤山

乞食は小袖くくくく 壺 團秋

乞食

乞食は小袖くくくく 壺 團秋

盗入

松うけや乞食も藤くさの川
秋の夜半門の乞食も月と云
よみ梅と梅盗人は夢され
お盗人こそよみのふ宿うさん
湯あがりや鬼灯盗む瓦被

星谷 梅壽 鶯笠 西月 車来

親

○入倫之九下

蓬葦のうらや存中は秋三人
蓬唯ひ秋のあてお家門外

青蘿 日人

父母

名月や秋の多をとる者戸修ひ
秋の秋も有るよりのを鬼系
秋の名て落まつくさの花
我慈の父母を七日の秋
父母も名く一休の生さ魚
父母の蓮ハきや一星遠い
父母と藤くさの日は一鬼系
又う碑家の秋はの芽ゆさふ
かみ藤母は存中一と又慈
初雪よめと度又う木履くる

木雄 逸水 碓嶺 篤老 卓池 省吾 流考 召波 暁臺 米彦

父

下
三六

母

| | |
|------------------|-----|
| 父の名を呼ぶて嬉し | 和友 |
| えりやうちむうちうち母の鳥 | 冥々 |
| 鳥をいっせえ母りの鳥もさういひ | こち彦 |
| うらや母は酒をさめん茶の香 | 名澄 |
| 故に起てうれき母の森鳥か | 茶静 |
| 産まうふまうちめをさすねう | 保吉 |
| まうちめかおんえうれうち二日の月 | ちん犯 |
| あうちめハ暑さも初ハ鬼 | 千賀女 |
| 大年や秋子あうち秋 | 篤老 |
| 蟻う家の秋子の中や雲の月 | 布雪 |

親子

垂乳女

夫婦

賀

| | |
|---------------|-----|
| 秋風のりハ刺魚まうち秋子う | 昌作 |
| あ仙を秋子の中は秋をうん | 多代女 |
| 果もなき田を耕うち秋子中 | 乎馬 |
| 下やまやまぬうち秋睡しき | 梨翁 |
| 涼しうハ田舎うち秋の夫婦 | 巢兆 |
| 梅樹く年も忘れぬ夫婦 | 秋奉 |
| あさ鳥は夫婦の秋をうちう | 蒼虬 |
| 夫婦して馬をうちう秋を | 涼谷 |
| 山里や婿連あうちう青月表 | 樗堂 |
| 賀う秋子のうちうう川田 | 一具 |

内儀

云傳の婿うらとく十春うる
 紗雲
 響丸吉をやく仕落つてお見せ
 獲物
 二日月や滝屋の内髪をとりつ
 ころ彦
 蓄あやをく内髪のをあけし
 胡隼
 飯くくをせを儀の内髪は
 多代女
 雜穀屋の内髪かき被居は
 一肖
 新敷や内髪のおへをさうり
 炉扇
 うらけりや向ひの女房あちをんる
 蕪村
 子親女房達をりゆをけ
 ち彦
 縮つてや馬は迎ふ出る女房
 涼谷

女房

妻

うつくもき女房おたりをさひ取
 ち彦
 本おつてし妻女房や頼るの白
 獲物
 うけりあまうらう花妻のひ痛は
 台波
 船場を妻の持り精濃うけ
 沢芦
 妻もほて妻うけらの捨 毎
 雨林
 櫓の火の消るゆくりや嫁の氣
 梅室
 山家うら娘とる門の柳 介
 季賦
 嫁とつて相をえたる被居は
 多代女
 梅うまや嫁と舅のむつし死
 隆女
 志嫁の帽子ゆくりをの月
 應々

嫁

女

あやけ女や糸をきくは忌徳
 空をと女のゆりつきの葉うな
 春の雪女の裾は障きゆらか
 雨ありと女のきし柳か
 雨形とて極女うららのさし園か
 紫肩し一節よ一本の花は何所
 菊もも爺も起るり坂の下
 海とておとりの花鴨ニツル秋日和
 焚き捨てるはあはるぬあつとけ

蕪村
 台波
 長翠
 碩齋
 弄龜
 車来
 逸水
 菊野
 三彦
 卓池

爺

婆々

姥

うらやまや春不はあとのゆりん
 風とるはあつとる多能咲日多里
 門前此姥う磯しぬ一秋海
 報謝より清あつとるよ里の姥
 我家のあつとる松葉菜より姥う高
 我姥の生をうらつとる初さつとる
 いさよひや教知もきぬ門の姥
 水仙や美人路をうらつとる
 涼中かきそれをも美人の産をけ
 梅の若美人もきぬを漸二更

梅室
 車来
 暁臺
 梅室
 寸風
 一夢
 梅壽
 蕪村
 葛古
 召波

美人

鼻 眉

眉のくまは秋の嵐の眼よりくま
本枯や落の姿も眼よりくま
眼のくまは筆くまよりくま
眼のくまは筆くまよりくま
蓋くまは眉くまよりくま
眉毛くまは眉くまよりくま
あまの目や眉毛くまよりくま
あまの目や眉毛くまよりくま
あまの目や眉毛くまよりくま
あまの目や眉毛くまよりくま

千代 二丘 雅 一肖 秋腸 太し 田美 北岱 雄淵 金菜

口 唇 齒

梅くまは口くまよりくま
夫山の口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま
口くまは口くまよりくま

こげ 蕪村 春鴻 稚啄 来鷹 葛三 菊角 五明 菱垣 玉光

脊中

為らむつら少脊中ふあう相寄る
り春の脊中さうりや種 簾
詠人の脊中さひき抄書うる
数珠さう抄まかり以蚕 時
秋月やあふ八聖法師人の髪
葉のあふあふさん跡、家 髪
涼しくやうらむりて結ふ髪う髪
飯盛の数珠さ生や桃乃 抄
若菜子の中より見ゆる白髪は
古は又多きハ蠅と白髪、の如

米丸 如陵 太祇 伯先 月居 希言 風芝 樗堂 玉珂

髮

白髮

鬢

鬚

初年や多髪院合ふ古傍 雲
月を思ふ人のりやと名を髪は
あゝ髪ともほゆる字あれあやめの日
尾髪明や鬢の毛と吹風の筋
鬢の雲おあげとも東風ハ揺る花
陽あつらは鬢のりじや花の世
いちりともや鬢は風吹撮の先
まはれ雪字紙の鬢ふうらむほく
狗鬢の汗もぬくを以勝南力
白菊小鬢大さうらむまうら

閑齋 可厚 蕉雨 曉臺 篤老 菊成 夏桂 福米 我香 寔雅

軒

軒は罪をうたふといひきうる
 やの宿人の春軒も 菊人
 原道けしみの軒や友の月
 鐘をちき秋の軒は 菊人
 万葉の軒はくわりの春の月
 年三や春のうらまゑは 菊人
 春の月や春うらまゑを山の奥
 見し夢の春のうらまゑを 菊人
 藤花はく夢のうらまゑを 夜
 夢のうらまゑをうらまゑの 夜

四十四

夢

涙

涙は 帝の涙もは 後うら
 書初は史邦の涙先あひ
 秋のうらまゑの涙もあひ
 年うらまゑの涙もあひ
 うらまゑの涙もあひ
 涙の圓のうらまゑの 菊人
 うらまゑのうらまゑの 菊人
 りは春のうらまゑの 菊人
 うらまゑのうらまゑの 菊人
 うらまゑのうらまゑの 菊人

ハナヒル
ノイ

平角 蕉老 草均 不材 草雨 椿堂 葵亭 草均 茅九 茶静
 博良 ち彦 葵亭 長壽 季珉 甘行 井眉 梅室 草雨 菅良

瘤

か代のまきけふの痛もやうれや
痛うらひ籠すまうらひ女うら
栲皮の風呂敷うらうら肩の痛

尊雅
巴流
三生

鶴

○禽獸魚鼈之十

おれれと鶴の白きうらうら
うらうらと鶴の齡やちる年暮
玉のうらうら鶴の志のうらうら
さうらうらぬまのうらうら鶴のうら

樗堂
と緒
蜺洲
月臺

鶴
龜

龜の鶴の空をうらうら
鶴の龜をうらうらとまのうらうら
うらうらと鶴の心ありうらうら
鶴の龜の秋と所をうらうら
鶴の龜のぬまをうらうら
土をうらうら鶴のうらうら
うらうらと鶴の龜をうらうら
鶴の龜のうらうらと
鶴の龜のうらうらと
鶴の龜のうらうらと

護物
乙二
東芽
了々
淡水
秋奉
袁丁
詠扁
みら彦
鶴

鸚
鵒

鸚鵒のうらうらと
鸚鵒のうらうらと
鸚鵒のうらうらと

みら彦
鶴

カウ
カカリ
カカリ
カカリ

後舟の星ふりたのふ勢勢
つゞく氷のひもを
日の節平流のうけとを
流の舞ふ上のうけとを
流の飛やぬき羽を川の水
流のうけとを
我ふあふふを
香の白うらん梅見り
七夕のぬきを
枚川のうけとを

漢物
奇淵
蒼陽
柯山
茶静
箕山
曉臺
夕彦
夜鹿
沙明

都鳥

カ
ツ
カ
イ
ツ
デ
イ

涼しや何所ふとれと都鳥
並ふるもあつきのうの
うきかて涼しきうの
うら涼やいしき時
蓬のゆきの中
萱まや勢勢
うけうの勢勢
陣田のうけとを
我門の勢つとを
都鳥あふれを波のかり

一司
椿堂
一嘯
田都喜
玉蓬
曉臺
夜鹿
炉扇
茶静
二

カ
モ
ソ
カ
モ
ソ

慈悲鳥

轉あゝや最果の堂の刈跡
おとよみ久慈悲心も六もささるみ
る乞や慈悲心も法何をよふ
慈悲心のるをひくちり敷桂
慈悲心をあつよめつる五月雲
山も法何知と落る木葉うね
あはれや山も法尾のあふむく
山も法藤やうと止れを聖おけ
去のそ山も法尾も明よふの
山も法藤うも星のふりや

淡水
鶯笠
妙法
露谷
以吉
升六
東芽
梅室
菊所
寛雅

山鳥

塘たがキ

尾長鳥

水乞鳥

鶏

尾長鳥もあつ鐘の部や移あはれも
尾長鳥もあつ鐘の部や移あはれも
楠ちるや椿くやり家尾長鳥も
初月の水乞鳥もよ夢をたう
葉さくや水乞鳥のあつや
まゆはあはれもうふ川あは
よはれはあはれもさ木階る星う
鶏の親子孫や麻の中
下はれ鶏のあつわの葉う
菜の層や鶏もあはれもあはれ

春器
南濤
夏桂
鶯笠
山青
仏仙
東芽
蒼胤
有月
可景

鶉

鴉

下

合

鶉のこゝれ屋よりまらう那

青蘿

唐丸の起りり老のこまらる

太祇

鶉の老やろ躰木を乾く雨

宇橋

鶉の胸毛兀くるあつさう那

真侶

鶯

毛と六月の老や梢のお六月

蒼虬

鶯をとり鶯より老より枝の老

梅室

古鶯の魚より鶯よりこゝれ那

卓池

十月やろろろ老より鶯のこゝれ

風芝

いつも来る鶯根もろられて老は鶯

寛淮

鶯鶉のいさよとあつさうの老

可都里

雀

鴿

鶯む田子りりるあつさうの老

橋堂

鶯秋より鶯と鶯のこゝれ鶯

雨埴

鶯は老より老より鶯よりこゝれ

應尼

鶯は老より老より鶯よりこゝれ

大梅

鶯の老より鶯の老より鶯の老

士朗

さうこれや鶯の老のあつさう

念彦

鶯の老より鶯の老より鶯の老

と徳

鶯の老より鶯の老より鶯の老

蛙堂

いと鶯は老より老より鶯の老

真侶

折れこゝれ老より老より鶯の老

剛更

鳥

家鳩も盆のちあれ故一飼
まゝいも限りのあるや堂の鶴
夏に入や鳩のちあれを酒一々
山鳩のせちち年時より友の世
雲に入るおのむさもあき家鴨か
聖ハ括く家鴨のあはれあうん
鳥羊四は家鴨のあはれ鴨卵作
わのちち年あれく病ハ家鴨の子
夕年のあうんあわつた家鴨のうね
縮つてもやわゆるをた森入まれ

木雄
多代女
蕉雨
秋翁
成美
春鴻
あさ雄
百丸
淡水
秋拳

鷺

天狗

木うじや山ハのちあれ山のもの
池のうや権と崩ハをふん
枯草やあはれあうん陰もあうん
枝子やあうんあはれあうん小妻作
山ハは天狗屋敷ハハツ手咲
初ハ草や天狗木を伐大巖古
あはれ子や天狗あはれあうん
我國ハ席外野あうん秋のち
手木植席ハあはれあうん
狼の口ハのうれハをさあへ

可都美
一肖
田駢
蕉雨
梅郷
巢氷
詠帰
卧鵬
詠帰
鷺老

虎

狼

豕

豕の子をえりも暑しや暮れ
豕は来りて堀ちりしるおこりな
初年や豕の中喜入藪の木戸
縮つりや豕もてあまの夜夜
木枯や木うらむる積の尻
祖公の積うのきゆる柿うり
積うけん積もよりのんまむ友
忘る積あや積のや袖をうりもせは
十月に兔と積の日あつらうな
陽冬は兔おとある核系

東芽
谷雄
可景
美知彦
曉臺
士朗
ちち彦
時喜雨
鶏路
召波

猿

獺

馬

うらの葉も房に兔のふい海
草枯や兔の山へかよふは
糸のあや兔いらふさまはうけは
山宿や兔うけらむそを結お
五月るや糞干とれ糸の臭
消くそふたりそ糞写巨燧うな
明月や糞戸をうく裁れ糞
川糞のあをさゆりつる子うり
雪月の糞干とらふそあ糞うな
そこの峰うらも水系るそ糞古

みち彦
天淮
西月
夏桂
葵足
寸風
紫明
星谷
護物
東芽

駒

冷しんばむらゝのハるふくりせり
 乙のいしをるは出てくる尾おひ
 馬の子はあひ床里よりぞこれ
 あををを啼くそやそのの
 佐保姫や年駒もよまらる鼻毛ハ
 牧の戸の駒は足添く蘇のよし
 菱おひよの三葉駒のふもえんうま
 牛市や赤ちね桃もくお風
 七一交牛とまらうや大根曳
 あくく火や社の聖中の放れ牛

谷雄
 乙人
 五介
 稚萱
 巢兆
 玄阿
 箕山
 東芽
 空塔
 田都喜

牛

猫

犬

猫つるや牛の息出は長登門
 牛呵るまも露むや宵の村
 冬の入先聖ホゆととひきめ
 海浜あのをををるる九月小
 井戸もくや猫のくハ折杜あ
 夕鳥やをくくそはあきく猫
 枯くや聖あふ山原不唐の犬
 籠新や橋くく唐る寺乃大
 道生や人をとあめる唐の犬
 門とま大のかまき 籠月

春路
 禾木
 政二
 祇山
 其翼
 淡水
 七朗
 多代女
 星谷
 和田丸

狗

里犬の子をくると兼ふ干馬ノハ
 明月や惠のあけ揺る下敷とも
 犬の子は挑灯子つく兼秋小
 あゆくと物の子あつく木槿小
 ちとちとい 鮎をつくつはる
 尾をわけく 鮎の歩り 遠野小
 秋半の雪 鮎あつてくちりよ
 未うれやまよけあむる 鮎
 縮つても 鮎子をもと切られり
 へい鼠の鼠よりよるを幸の秋

大梅 蕪村 瓜坊 芦文 壽翁 遅竹 谷雄 星谷 稚篁 乃ち彦

鮎 イロキ

鼠

土 竜

初春や春ゆく古の荒とく
 春の初や荒のさやひる
 行くもゆるとの秋の秋
 ちくくする白をさせり 畑荒
 土竜りの子の戸尻も被る小
 夕立子やく家へくせ土竜
 惟光の協正とくより 扇う形
 秋の影は落るやわりの楓
 壁の協輝とるまをいあう
 協いともま子つけを枯まらる

巢北 蒼乳 夜鹿 我車 宇橋 蛙堂 大江丸 斗入 塞馬 寛雅

鯉

下

五十四

體い 瘦わろ 齧い 齧び

虱シ

後棠よとくく打うけや萩の松 獲物
 虱一ツうけとるくくる都小 西月
 あやめ湯干消よ虱のくくは 呼亭
 枕一この虱干あそる十萩小 ひろ
 虱くもまきこさうまれは年くれぬ 露谷
 けさくくや登くあうる梅るは萩 篤老
 わの字や登よゆれる井出のそそ 東芽
 登よせよおくは登うる林うそ 乙人
 うらまきく登のくくく小萩小 上廿 政二
 登の穴干は夕のくくぬ小をく 草雅

蟹

船虫

舟虫ははくく磯辺日亭水鶴 梅室
 舟虫の砂よ子を育ふ暑うる 獲物

守宮

萩葉やちまの極家ゆきうり 夕ち彦
 山萩やちまもとらいつくく子休 夏桂

鏡

塔よむむ里の流世や冬日うけ 東我
 ちくく白や塔の小石を引出り 雪津

けさくや構川くく干塔のくく 露谷

塔のゆるくく世あまの流世小 獲物

蟻

世を棧のむくみくくんき 暁臺
 ちくく子よつらりうけくく棧乃関 斗入

龜

風ぬくーちや及子むる竹の埃 卧鵬
 いそかしくあつこのおちる埃の宛 霞江
 人きふ千おこむ龜やまののろ 太祇
 龜の手子余をその皮のわろく 冥々
 龜もまけ仏生るる膏のふ 湖山
 川原子と糸うけくく龜のそ 梅壽
 龜の屋又川をくこれままのあ 淡水
 魚活く貫子 踏る 寄淵
 魚む地鼻を並へく 奈岐沙
 魚を川を魚くり 湖山

魚

鯛

鯉

比目魚

魚のいの 粟家ハ 梅のあ 一樓
 魚河原やうさも 林も 風のを 連志
 初あや 埴うり 穂も わらうと 鯛 奈彦
 菜のむのふをうさ 中 海 塞馬
 箱書や 鯛の 時を 見る 木海
 鯛の 目子 針さ 人々 林の 茶静
 鯛 魚の 袖も ちよ 春の 梅壽
 小切の あも 子孫 ちよ 柳葉 立 茅丸
 ちよ あけ 比目 魚の 春 春 鴻
 鯉 魚の 生 春の 春 春 鴻

あぶ 虻 鱒 鱒 鱒 鱒

鮎

海老

塘水不鮎の白中人茂イカ
 梅島の舟生鮎下と南ううり
 稻つと鮎をうりまの鮎の鮎
 うさおと鮎をうりまの鮎をうり
 苗代より鮎をうりまの鮎をうり
 鮎の飛揚の桂咲りりりりり
 浮籠る鮎の志つむや鮎をうり
 うきまをうりまの鮎をうり
 春風や子鮎うりまの鮎をうり
 海老よりまの鮎をうりまの鮎をうり

秋峯 貫山 輪之 茶静 蕪村 眉山 茶静 斗入 卓池 季珉

烏賊

鱒

鱒

ようまはまの鮎をうりまの鮎をうり
 川鮎の芦の根をうりまの鮎をうり
 塩烏賊の塩をうりまの鮎をうり
 烏賊の塩をうりまの鮎をうり
 長尾の鮎をうりまの鮎をうり
 鮎をうりまの鮎をうり
 さみされや何者よまの鮎をうり
 田の中は鮎のとれる鮎をうり
 ありまの鮎をうりまの鮎をうり
 鮎のうりまの鮎をうりまの鮎をうり

阿方 来鷹 卓池 谷雄 護物 士朗 泳帰 東芽 何先 西月

鯀

夢田川ととよまの舟よ鱗うき
ちのちおやうもこころる鯀うき
おのうらむ秋を濁しそ鯀や
いよのむ鯀もつくる在所うら
後の月鯀やあると問ひり来
ふまも鯀も並ふ余をうら
ふたれの鯀喉魚市とくる柳江
内川へ鯀喉魚のうらまを
茶番や鯀喉魚の森うら冬の向
夕まや地ちけまむ溪の象

輪之

二丘

梅溪

泳帰

鶯笠

應々尼

桃溪

青岐

夜鹿

成美

雜喉魚

鮑

貝

まもや屋根りあせくる鮑貝
地とま鳥もおひうめはが
地むく蟻も月見るむしりか
そこれや足りあせくる貝の壳
子子のうらやうき世のうらせ貝
水うらう生々流るる春の貝
まう松や秋うらうのうらせ貝
あうき世の雀貝とそ梅のやと

月丘

陣象

露谷

蘭更

重厚

臣湍

春鴻

与人

田圃草木之十一

田

静齋
 秋をくや秋をくや田はくちひと
 田と川の原は雲むやハ日月
 いあつても結露度をもてる田つて
 ちりまをこの梅やあ田はあ波よる
 田うりりふ野道行聖方うね
 土むきそ麻七尺の畑うね
 砂畑より雀あくくく小まふ
 雲む日や影くうれくる畑の松
 年よれをうも列より畑はある

静齋
 湖東
 小圃
 沙明
 保吉
 茶静
 連志
 草雅

畑

畦

畔

反圃

林

夏桂
 陽をくや畑の冬を菜の川流し
 中々もはく畦や畦あは苗のみ
 朝日くも畦や陸のうりり新
 冬雀聖や小松う畔の焼と匂り
 冬梅や田の畔くく新麻の飛
 冬あつても結露度をもてる畦
 あつてもあつてもあつても反圃は
 鴨あつてもあつてもあつても圃は
 冬も日をもくくき松の林は
 冬も日をもくくき松の林は

夏桂
 圭洲
 草雅
 冬彦
 大梅
 護物
 小圃
 夏桂
 梅間
 左雀

下

六一

森

木

老木

風筋を梅よりして竹林う那
 時多異ある者の木やしつる
 ようく皮を削うくひきと森の奥
 との森はうけを形つらこく通
 ちは森人の木をくくる者うけ
 うけりふのうけや梅をむ木のうけ
 かなの木くもものうけくくこの秋
 囲ひ木のうけくくめとやけく子
 少風は木をくくめくくり流月
 初花や梅の葉よりくく老木よめ

竹妓 砂粒 梅室 南濤 馬佛 十丈 眉洲 玉光 禾木 東芽

古木

枯木

老木よい金屋くあるゆそ七節の香
 まるまると芽よ出る吉敷の老木や
 咲ゆめをまひもいとくぬ老木うけ
 うくひきふをくめくくる老木や
 梅や葉よさく梅はくく古木うな
 縮うけくめきうくくある古木や
 梅枝の十そくうくく枯木うか
 さむくうなあくれけくく枯木や
 枯木よもくくくくくは曇りうけ
 春風の枯木よある山崎うけ

卓池 田都喜 霞江 平雄 霞外 小圃 士朗 天涯 黙巢 乙人

下

六十一

木間

ま風のまのまうううする枯木
我があまううううううううう
新雪や木の雪の中枯木より
明月やまぬ木雪をゆき出さる
名残いさる枯や木雪のての何
二月はううううううの枯
うら山の梢も吹ひ月氷
むらうまぬれと蝶の梢うう
吟賦の白とまううのそく梢
ゆくまや梢まううゆる藤の系

碩齋 士朗 規洲 寛雅 護物 鷄周 南濟 舟静 来鷹 露邨

梢

松

條うのううううううううう
老松のうせまのううううう
うううううのまううううう
うううううの子代も梅ぬへ
縮書ぬ松も梅ぬれぬうう
松うううううううのある子
松を燃せううううううう
何ぬぬうううううううう
いさうのうううううううう
ううううううううううう

椿堂 白養 凉谷 梅壽 玉光 ち彦 乙二 星谷 良女 白黛

檜

十

十

楠

杉

可都里
 志乃女
 五峴
 茶静
 寄淵
 多代女
 川峨
 梅壽
 護物
 召波

ふらふらや初の接果よき多かる
 一ししれおぬ夕日法核 山
 のたつるは消くきある核果
 陪をよ日法さきまの核果うな
 楠あいつも涼しやそのはく
 楠の根はまも喰くかきま
 程松のありうみくきく楠の果
 あのをく楠の大木や風葉ふ
 楠の芽の紙しし木の中心
 月もやき杉のありやま花

檜

榊

乙二
 省吾
 卓池
 禾葉
 斗入
 草烏
 橘叟
 夏挂
 竹人
 越兒

山口の杉のきくさよまののき
 文おふとまの杉をまきりく
 常は杉のありや杉ののき
 まのき杉写のあり田乾さきり
 檜の木はま葉の先のむく
 檜の木はありししや檜あ
 檜の木や葉のきく檜のこき
 帷子のありしきの淋し檜のる
 志川や海邊く通る榊の葉
 うらまや林通しあきの風

楨

雁翅檜

柳葉や神門崎程のち

千年

苔はたまたまのそく

露谷

楸おるききき

寥松

あまなるなるとのそく

ひさ彦

楸の裏はくはくはく

一具

あふれをたてた

のち良

楸の葉も水豆腐のそく

五畔

楸の山麓はくはくはく

そく記

まの日は月の中

宇橋

あふれをたてた

迦孫

楨

楨

五月のや花はくはくはく

大梅

常の表を帯本

以吉

あまなるなるとのそく

蘭更

あまなるなるとのそく

椿堂

乙子の生はくはくはく

大梅

燈籠の油はくはくはく

士朗

まの日は月の中

樗堂

あまなるなるとのそく

兩林

宿をたてた

静齋

移宿や門の板も

千年

椋

桐

柏

椎

椋の木は椋をあらう月と我

椋の葉は秋風つらや大井は

影をひくあはる灯のさゆる桐うら

日陰のまなこぬ桐や燈のさゆる

さひさや燈自秋の柏の木

綴りもあはゆるうけを柏の葉

細きと出れそ柏の葉のふる

あてあてもあはゆるうけを推う本

推の葉は燈のさゆる桐うら

推の木は月をあらう月と我

椋堂

汶水

迦孫

圭洲

保吉

星谷

車両

素檠

屋烏

旬光

椰

檜

榛

椎の木は椋とあはゆる月と我

椋の葉は秋風つらや大井は

影をひくあはる灯のさゆる桐うら

日陰のまなこぬ桐や燈のさゆる

さひさや燈自秋の柏の木

綴りもあはゆるうけを柏の葉

細きと出れそ柏の葉のふる

あてあてもあはゆるうけを推う本

推の葉は燈のさゆる桐うら

推の木は月をあらう月と我

菱垣

護物

みち彦

不知作者

道彦

卓池

归来

霞外

一蕙

禾葉

十一

六十五

椶櫚

椶の木は新もつるさぬ跡を
椶の木はあほれ余るや縮むくめ
古ちふ椶櫚の皮むく妻乃風
うりけりや椶櫚の皮切く妻乃
梅もそれや椶櫚は八徳も是れやら
やより木ハむきかき山嶺
やより木のちりき椶先赤
やより木の椶をそくする妻乃
やより木もあるふおろくなる尾
秋のふゆのやより木にえそむる

可景
護物
保吉
東峨
露谷
卓池
夙也
雲布
鷄周
護物

蒼寄生

草

本うりけりけりけりけり
山草とけりけりけりけり
草の葉のさるさるや夏の月
松陰をさるさるけりけり
草の根のさるさるけりけり
並草もあるけりけりけり
草のさるさるけりけりけり
草のさるさるけりけりけり
草のさるさるけりけりけり
草のさるさるけりけりけり

素迪
十丈
旬光
啓山
砂粒
東草
蛙堂
露谷
士朗
卓池

苔

芝

藻

暑き日やなぬ雀の苦の上
 とくも引たらし苦あうら子代の私
 葉虫の夢うと身一苦の雨
 あつうさや枯葉うりまうふ玉衣
 夢の夢とやうやほてはあつら魚
 ぶ魚や藻のこころあゆらうさ
 挿也んと藻屑も春一春のあ
 浅茅ほくくくく秋はなうりうま
 秋のけりまきくまきうら浅茅系
 ちとまみ入るや浅茅の爲 曇

凡鳥 霞外 護物 曉臺 野揚 自友 其峰 士朗 草均 蘭溪

浅茅

蓬

竹

藪

蓬生やあやめ一初の仮 枕
 蓬生やあやめ一初の仮 枕
 きうくくく蓬は足も落つては
 細うらり蓬あやめ初さうら
 藪哉やうらうらきさうら秋の山
 秋風や一吹たらしむ山の藪
 障うらり玉掃うける小藪は
 十葉や細をむらふ藪うらうら
 葉栗や風もなすぬ祢の藪
 葉や竹の葉むらうら隣の花

壽翁 閑齋 梅令 寥松 葵亭 且翠 雨塘 駭鳥 珠弓 鉢夢

篁

篁

宵啼の鶴とてくろり竹の葉
 竹好のほあり勢ある五月日
 うとひまや竹の宵とちりうけ
 ひらひ火のうとみろり竹の葉
 篁の月不^らおとろく^り聖方^る
 篁や蓬秋の星のうけとりる
 ほく^と山篁^るる^り葉の^ぬ
 篁や明あき秋の月^なる^り
 嶮^りやい^たの^り篁^系裁^とや^うみ
 啼^との^り葉^のわ^くそ^の小^篁吹

騏道
 屋鳥
 魯石
 卓池
 護物
 昌作
 ちる雄
 文卿
 椿堂

篠

篁

唇^り羽^玉の^わり^くく^る篁^の香
 うとひまや根^篁つ^らん^て裁^るる^り
 篁の^りも^ちれて^て垣^根の^り風^葉
 唇^白の^りも^うら^うと^涼一^篠の^葉
 能^知る^る不^常ぬ^れの^り葉^乃雨
 ち^れ智^のの^り篠^ちち^りを^存存^り
 唇^うち^や風^はち^らう^く篠^の叶
 鈴^りや^まさ^ふち^らう^くも^篠の^葉
 あ^れ障^篁の^り籠^や子^ハは^りき
 篁^あく^や山^竹も^きん^るく^あき

卓二
 弄化
 寛雅
 曉臺
 瀨古
 田都喜
 ちる記
 護物
 ちる彦
 可厚

斤押子まゝの筆の匠、りぬ
叔母の故乃筆吹動を難きと
玄夫
岐久守

雜之十二

春述懷

朝のふるまふさうと見えて老はるる

巢兆

足踏しを老ふれ

花の山更盛はあふりゆつゝぬき

長彦

春をいむ心まじくし思ふはうぬ

月居

孫子見せぬはるるのれをむす杖

椿堂

さすはらと息をりぬとむのき

相模

豊女

むらりゝるは十年まじし梅の春

雨塘

菊は老をくくむすけたり夢田何

護物

夏述懷

老慵

夏衣人のくきりきりきりきりぬ

士朗

おとし子ハ老はるる世の花あはれ

みち彦

故をらふはあはれとむす杖はけ

長齋

暑さく呼れぬ口や老を初ふ

椿堂

純なれそ人もとらぬ杖 牛

一具

秋述懷

友ある亜並を家きりて老るる年
きりゆり一むの女と年うとむり

おしきの獄屋まつたうれををるに
日はたうりうり

志たうぬ竟ハ其中いふ家は昔う売と

みち彦

こゝせがれしあつて五とをあつて
古今の重全よき

我著も昔う売と算く孫れうり

乙二

あまゝ誰し年のことえある月秋

卧鵬

乳みしうみ樹ををなれり秋の塔

谷雄

萩桔校秋の日毎のりれわをれ

茶静

古今は似て人多し一壺の月

護物

埋て大や老のあつる所の細りゆ

恒丸

笠のわつれ古今をくくく進り

月化

冬述懐

老懐

髪とて海人悲のけりてをを苦を

みち彦

かきくうり人の子れとる年よとを

杉長

冬は終人りて秋なり疎くなる

寄淵

おとろくと初く傳はる刻いりりか

梅室

年比時とあつる垂然上人聖くを依毎は
あつてのよは我ぬ死をハ伊豆の崎くは

子もあつて啼く孫も生れりれ

護物

閑居

冬の日や仏のとりてをを清に

みち彦

山里好ある古程のあつは海うユま
引く留は初くと怪はあつて

了く麻具とて葺あつて人木広のま

杉長

春懐旧

守古を木魚くくけをきこりて
のれいそくどくく木魚とてあれを

茶静
守三

双ヶ岡

花と我と我とくくくの歌あり

曉臺

鴻の臺

春風も我も涙のあくくく
古人もゆき様乃木留くく
雅う泪うけく様をきいそく

沼人
一具
多代女

信玄古城

石らつれて墓ハ半れう二の岩

護物

夏懐旧

去の乃ハ粟津まつくく後り介
秋曇るハ崎の海や岸くく
二人やそく友達死んでくつれ魚
夕魚の花はぬれくくむくく
中田の光るくく新女の記念のあく
きくく

保吉
樗堂
成美
日人

秋懐旧

暮きぬの友となく日や時を
かもくくくくくくくくくく
あくくくくくくくくくく

護物
みち彦
長齋

虎ヶ牌前

高館懐古

下
三

りたつたを動くやうく香の玉 谷雄
菊とくく戻りよ香や秋の友 馬年

外川懐旧

虫やうや波あふらうらう 井戸の香 獲物

多胡碑

お一葉月毛の物もいおらぬよ 露谷

冬懐旧

井浪古城

落葉あふ古塔は落る候也 樗良

六甲山の麓をくぐる

冬をくやるまをくぐる山の月 一肖

鎌倉

谷くやふりりおの葉 細 冥々

須磨敦盛塚

お仙のおやおちむくおめ 露谷

安土山懐古

芦枯く麦蔭くちぬ湖の香 獲物

旅もあれそりの味も梅のお 羅城

香をくく限りあふ方の老う旅 冥々

縮のまや旅もくくをのまのふを 椿堂

旅もあふ旅もくく門の柳也 岱年

旅

春旅

我々もももも秋も行やら哉のそ
 うき旅もちやこれう南の朝露
 旅もれもそれさくれ〜畑芥
 若菜のつもれて居るや旅の魚
 稻活の香やゆめも旅の朝餉
 旅ハ程日和はあうんも里鳴
 芍薬は薔毛そえさる旅路外
 旅もてハ忍ぬゆも〜牡丹中
 出ぬけさる木敷を恵や友の旅
 津門より旅をささ〜一藤入
 護物
 みち彦
 乙二
 若助
 振々
 三生
 曉臺
 葛三
 有臺
 茶静

夏旅

秋旅

冬旅

ハ朝や旅ハ森うち旅物もそれ
 武蔵野や菊をさるりの日や旅
 旅もれハ衣の外は木槿外
 雪の来ると人の云の老の旅
 旅もれ〜菊ぬらう〜月の秋
 旅人ハ草鞋も各〜冬の凍
 ちつ雪や身ハち〜なき旅物
 雪は朝り明て用なき旅路外
 笠の獨りり雲影も旅路の外
 月多き世やも旅もも十秋後
 曉臺
 春鴻
 女
 亀丸
 言々
 兔國
 みち彦
 塊翁
 谷雄
 定詩
 爐扇

下

下

旅泊

去つうや海をいそぐ秋の月
残照して行燈うらぬ五月雨
うら海と矢走を蟬の初手
露む日とつけくちの火鉢
鬼とよふ門は宿を不様
船鳥や夕白の宿はひびく
星の秋夜くくは旅をせん
故郷を居てをたむ様
赤五墨はあつきうつを
くくの喜河をたむ様

葛三
五錐
梅室
川峨
花縣
士朗
葛二
谷雄
春鴻
樗堂

草枕

初雪やり雪ある草まくく
古葉のうれとあるや草枕
その夢や思ふくを草まくく
六月や旅人平雪不秋の山
半ひ人の御守ひくを五枝川
猿人を羨のうけもやうり
旅人の身おありくを月秋の
旅人の橋投りくを静あり
秋風や人やうらぬ旅あり
風薫るまくくや小笠小風

旅人

初雪やり雪ある草まくく
古葉のうれとあるや草枕
その夢や思ふくを草まくく
六月や旅人平雪不秋の山
半ひ人の御守ひくを五枝川
猿人を羨のうけもやうり
旅人の身おありくを月秋の
旅人の橋投りくを静あり
秋風や人やうらぬ旅あり
風薫るまくくや小笠小風

素葉
蒼虬
漫々
樗堂
み彦
恆丸
篤老
茶静
岱青
巢兆

旅調度

下

七三

餞別

既館に送果うけてくれり宿のみの
 日人
 右箸も囉りておしや既館の中
 獲物
 旅の具の中へぬるものも
 夏桂
 大芝坊へもあつたをて送る
 曉臺
 二とをや身はくふ唄も打て初道
 士朗
 して終てあやしめられを旅あがりも
 玉屑餅
 旅衣もけき旅衣の衣川
 宗讚
 ある人の南終りを送る
 南山
 友山をててしりあつたのふり

肥あはけめ餅
 留るはひくくの人よこる旅
 みる度
 鬼洞り古くくの時
 古今の池りもれはや青 蛙
 田舎庵の都りを送る
 さくおひも吹れくあき旅出は
 茶静
 菊舎古四郎古くくぬる
 新よきふ妻をとく越さくつは山
 獲物
 七とをくくくくあつたをて送る
 浦島の古くもくくく纏物
 〃

留別

南窓く様うのふと送る

涼風の上流をよきくこ葉うる

岐久守

東り為ふ

去のわかれ山吹純く夜あく

曉臺

わかれ後の山吹くまききあうけ

斗入

上京為ふ

りとある耳や荒も存のまう

石倉彦

松を山り為ふ

茶子原く葉あをと葉あ

大梅

越路り折る

首途

鳩牛多しうふゆる翌の夜

護物

涼くこや様くつ日の朝ほけ

樗良

接木くそを様くつま

雀叟

苗代やそ達の字地ぬりり

南濤

廿年を経て老懐あをさ

ちるふつけ様ふまをかくり台

曉臺

東山の林あをさ変トし

嵐くそと蕭々引合ふ徒あ

蕪村

大儀の昔史を仿ふ

咲くくさるあをさく片枝さく

石倉彦

物
サシ
スル事

画
讚

おと秋田表葺きとていめ
ふちゆきふりの葉は交る
くはある涼しきひを是より
八朗

古学を小あそび
門の松陰志とて子代は交の月
露谷

金吾成就後
松風はわぬりけり秋もそ
護物

早乙女讚
鳴の巢は吹くくさる秋極望
暁臺

惠遠法師讚
うりくと橋をこころり交の月
柳几

張良讚

ふもやうと帯もあそむの上
士朗

蕉翁像讚

松崎の笑顔のそれぬ猫生
みち彦

西王母讚

伴保姫の乙女とていれ
乙二

傾城讚

はくちなき風を種とや扇の手
壽翁

鶴讚

くのもく小松の子代や
一茶

関寺小町

杖子手をまよひてささやきの月 蒼虬

伏見人形讚

浮子の土の古をれや桃の花 梅室

恵比壽ノ讚

おあそりハ身のうきまき茶屋ノ 露谷

高野玉川ノ讚

是亦なる水よりけむく海山を 護物

六歌仙之中
小町

おとろつとをかきひくのなり関の雪 草夫

康秀

雪の中より露の芽はけるは白や 一肖

日の筋や玉まき草の布とく教 露谷

業平

起即や扇の風も秋をみ 葛古

黒主

くく月のうらや山の雪明を 禾木

月より人形をくちうとさひはまの 保吉

長居をる存も那さう為る主居か 素後

あ中ハあれぬもぬき一りの菜摘 玉蓬

回文

41

42

下
七十八

物名

去り笛や新場の若木のハ巻保
来つて〜門く〜門り唐あ日く
大和山城 紀伊岐美濃 三河
山と山ありきとと若木の雪見く
椎 柚 梨子柿 菜黄
あおゆつる酒ハ秋なりう若く思進
生絹 紗綾 編 慰斗目 絹
〜〜〜の巨連風ゆ〜と
旅草野
たひの秋ひく〜のふ若つ〜。一時ぬ。
花散里
初若あ。ちうりきふえる。若喙の病。
若紫
子縮さ中。むる雨を〜。さそ月。

梅壽
護物
保吉
護物
露谷

沓冠

詩

潤水湛如藍
朝鳥や一とん海き園の色

詠帰
岐久守
護物
燕村

少年行

春の月影のうらを並へり

士朗

日映萬年枝

秋明けそよ草葉菜の草木外

乙二

沈香亭北倚欄干

妹起ぬらも牡丹の移ある時

月居

少年行

依道城く鞆あり車以柳中

卓池

山中無曆日

第ハ春景のそよ木の宿

谷雄

ハ
二

歌

おとくもくしん柳ちうあく本んうと

茶 静

行到水止處
卧看雲起時

名を慕ふ人の多さよ山ささく

護 物

古今集のりあしけりし雲のたれはあひのこころ
おくれんとりあしけりし雲のたれはあひのこころ

春ヤクももろりりらん壇の足

曉 臺

千載集遙たさるりあしけりし雲のたれはあひのこころ
秋の海見のあつらありけり

花の秋はとりひりけりし雲のたれはあひのこころ

茶 静

蒙集正さるりあしけりし雲のたれはあひのこころ
りあしけりし雲のたれはあひのこころ

うげんふハ雲のうけりし雲のたれはあひのこころ

護 物

声振林木
響遏行雲

唄

いせ人ハあひのこころのたれはあひのこころ

今

源盛物語そのつら伏家は生さるはけき本丸
あつらありけりし雲のたれはあひのこころ

あまを家ハ八庚る人あり星今宵

岐久守

催馬樂 老孫つゝ

雲霞つんは花もゆきもあつらありけりし雲のたれはあひのこころ

みち彦

白挽唄

あまを家ハ八庚る人あり星今宵

あまを家ハ八庚る人あり星今宵

茶 静

鹿島童謡

あまを家ハ八庚る人あり星今宵

祝

とまへしんく麻島の舟渡、常賀母第八
七筋重六子文子くくし水野あま

護物

市平氏の由産を祝ひしや

産産や五日立ても五の妻

一具

夫う代のそやゆりく風巾

黙巢

茶代や若のく存む菊の香

茶静

賀

護物く水川潤養の賀

冬笠わりきゆりくを恨みくま

みちひ

菊所より移徒賀

不足ちりき宿とある移もくく初る

椿堂

移徒賀

何く移や若の白ひも移のを

露谷

婚姻賀

嫁入初月の入江の柳うま

龍石

滝初のをよよとせの初きよ

伯先

嫁入のそりしを喜むむ所なる

黙巢

初老賀

若男梅うりさうらふさうりや

樗良

年りそれるふ名後の伸る入

曉臺

馮月四十賀

よりの山あき八人のさうりしき

士朗

五十賀

春盛五十賀

昔より百もくちりめ作らるら

谷雄

鳴きを槐子玉母の教さくん

曉臺

松子翁志をさくちりあはれり死

三彦

還曆賀

老松や又ゆくくめそいく家

一茶

あのおくすくまをつむへく縮のお

梅室

六十を誇くむくく松をむ

雉扇

李臺賀

十くくちや先くくく松のお

詠帰

古稀賀

月をさくさくちをれそおのま

士朗

七十の眼も土草の袴、のしを

雨塘

挨拶の古稀祝ひくく縮着を

菊成

ゆるさくちくちもちのちる苗を

稚蘆

八十賀

梅柳八十くくちもあくくちん

曉臺

まみくちり松くくちを童くち

蘭更

冥く八十賀

百年ハおつちくち梅くち

詠帰

米字賀

縮くちくち風もむくちくち老の松

蕪村

よのひの賀の餅くち宿や梅のま

東城

雁路老母ハ十八の賀よ

種徳のくさるる年や睦之月 護物

九十賀 雁門の阿母九十ノ賀

十株つゝみ子代とく菊の九ノ節 曉臺

菊の香もあられと久し一九月 露谷

百歳賀 携佩て百歳小子のくさるる元 月臺

あまのふねの里孝若う祖母百歳賀

依子の十はく十をよむまきの みる彦

江都書林

下谷御成道

青雲堂英文藏板

| | | |
|-----------|-----------|-------------------------------|
| 小學本註 二冊 | 增補文語碎金 二冊 | 八面鋒 四冊 |
| 扶桑蒙求 三冊 | 宋名家詩選 二冊 | 晚唐百家絶句 五冊 |
| 題画詩類鈔 二冊 | 香斂集 一冊 | 和歌題百絶 一冊 |
| 三大家絶句 一冊 | 蜀山先生詩集 一冊 | <small>東征稿 西上記</small> 二冊 |
| 漫遊文草 五冊 | 昔々春秋 一冊 | 酒中趣 二冊 |
| 左傳凡例考 一冊 | 左傳比事 一冊 | 歳華一枝 一冊 |
| 歳華一枝拾遺 一冊 | 名乘字引 一冊 | 名乘字彙 一冊 |

| | | | | | |
|--------|----|-------|----|--------|----|
| 略註五經字引 | 一冊 | 篆書字引 | 一冊 | 易學小筌 | 一冊 |
| 書家必用 | 一冊 | 書家錦囊 | 一冊 | 書家便覽 | 一冊 |
| 古韻通叶 | 一折 | 醫書之部 | | | |
| 痘疹戒草 | 三冊 | 治痘要方 | 一冊 | 治痘要方補遺 | 一冊 |
| 治痘要訣 | 一冊 | 痘疹養生訣 | 一冊 | 痘瘡食物考 | 一折 |
| 保嬰須知 | 二冊 | 續痘科辨要 | 三冊 | 種痘辨義 | 一冊 |
| 雜書之部 | | 方函 | 二冊 | 日養食鑑 | 一冊 |

| | | | | | |
|--------|----|------------------------|----|------------------------|----|
| 三省錄 | 五冊 | 世事百談 | 四冊 | 瓦礫雜考 | 二冊 |
| 東江倉百首 | 一冊 | 子昂真草千字文 | | 子昂龍興寺碑 | |
| 隸書醉翁亭記 | | 蘭竹畫譜 | 二冊 | 竹沙小品 | 一帖 |
| 光琳百圖 | 二冊 | 光琳百圖 <small>後編</small> | 二冊 | 光琳百圖 <small>後編</small> | 二冊 |
| 畫圖撰要 | 三冊 | 一蝶畫譜 | 三冊 | 蕙齋略畫 | 二冊 |
| 刀釵圖考 | 一冊 | 刀釵圖考 <small>二篇</small> | 一冊 | 裝劍備考 | 一冊 |
| 鞍鐙圖式 | 一冊 | 甲冑着用辨 | 二冊 | 貞丈家訓 | 一冊 |
| 田畑調法記 | 二冊 | 百姓袋 | 一冊 | 按孔方圖鑑 | 一冊 |

| | | | | | |
|--------|----|-------------------------------|----|----------------------------------|-------|
| 珍錢奇品圖錄 | 一冊 | 古錢鑑 | 一冊 | 佛鬼軍 | 一休 一冊 |
| 三更一心記 | 一冊 | 日蓮御代記 | 一冊 | 善惡種蔣和讚 | |
| 八部後講釋 | 一冊 | 曆日講叙 | 一冊 | 將棊圖式 | 一冊 |
| 歌書之部 | | | | | |
| 貫之集類題 | 二冊 | <small>香川景樹集 桂の落葉</small> | 二冊 | <small>海野遊翁詠 柳園家集</small> | 二冊 |
| 千町拔穂 | 一冊 | 園圃拔菜 | 二冊 | 萬葉用字格 | 一冊 |
| 靈能一貫 | 二冊 | 源氏物語系圖 | 一折 | <small>手柄岡持狂歌狂文 家あやろ</small> | 二冊 |
| 蜀山百首 | 一冊 | 仮名類纂 | 一冊 | <small>竹村茂枝集 穂向屋集</small> | 三冊 |

| | | | | | |
|--------------------------------|----|--------|----|--------------------------------|----------------------|
| 俳諧之部 | | | | | |
| 俳諧故人五百題 | 二冊 | 續故人五百題 | 二冊 | 掌中故人五百題 | 一冊 |
| 新五百題 | 二冊 | 新々五百題 | 二冊 | 嘉永五百題 | 二冊 |
| 今人五百題 | 二冊 | 續今人五百題 | 二冊 | 今人五百題 | <small>三篇</small> 四冊 |
| 近世五百題 | 二冊 | 白雄坊五百題 | 二冊 | <small>過日庵撰 今人百家類題</small> | 二冊 |
| <small>過日庵撰 近世十家類題</small> | 二冊 | 名所千題集 | 三冊 | 題林發句集 | 四冊 |
| 十萬發句集 | 四冊 | 乙二七部集 | 二冊 | 曉臺七部集 | 二冊 |
| 今七部集 | 二冊 | 嵐雪句集 | 二冊 | 發句類聚 | 二冊 |

| | | | | | |
|---------|------------------|---------------|-------------------|---------------|-----|
| 數句古今撰 | 二冊 | 過日庵輯 蒼虬翁句集 | 二冊 | 今入數句集 | 二冊 |
| 俳諧寐癡 | 二冊 | 饒舌錄 | 二冊 | 過日庵撰 名家類題 | 四冊 |
| 一葉集 | 芭蕉翁 一代集 五冊 | 一葉集 | 後篇 翁之文消息 四冊 | 俳諧集草 | 十六篇 |
| 俳諧四季草 | 四冊 | 安政五百題 | 二冊 | 過日庵撰 類題金玉集 | 四冊 |
| 風俗文選拾遺 | 二冊 | | | | |
| 梅澤先生手本向 | | 庭訓往來 | 一冊 | 風月往來 | 一冊 |
| 千字文 | 一冊 | 消息詞 | 一冊 | 庭梅帖 | 一冊 |
| 御成敗式目 | 一冊 | 女今川 | 一冊 | 女雅俗要文 | 一冊 |

| | | | | | |
|--------|----|----------------|----------|-----------------|----|
| 新三十六歌仙 | 一帖 | 雪後帖 | 石摺 一帖 | 新撰詩歌合 | 一冊 |
| 續撰朗詠集 | 二冊 | 實語教童子教 | 一冊 | | |
| 諸流手本向 | | | | | |
| 尊圓古今序 | 一帖 | 同真名序 | 一帖 | 尊朝瀟湘景 | 一冊 |
| 大橋庭訓往來 | 一冊 | 大橋新年帖 | 一冊 | 橋正敬庭訓 | 一冊 |
| 正敬商賣往來 | 一冊 | 蓮池堂法帖 | 一帖 | 瀧本芳野道記 | 一冊 |
| 瀧本鴻書帖 | 一冊 | 雜書并繪人物之部 | | | |
| | | 曲亭馬琴案文 雅俗要文 | 一冊 | 十返舎九案文 諸國書狀指 | 一冊 |

| | | | | | |
|------------------------------|----|--------------------------------|----|-------------------------------|----|
| 教訓圖會 <small>前後</small> | 二冊 | 皇朝三字經 | 一冊 | 繪本國恩俚談 | 一冊 |
| 大學笑句 | 一冊 | 裁縫早手引 | 一冊 | 米錢胸算用 | 一冊 |
| 每朝神拜小言 | 一折 | <small>式亭三馬作 小野馬鹿村</small> | 一冊 | <small>十返舎一九作</small> 附會紫文 | 一冊 |
| <small>山東京傳作</small> 滑稽文選 | 一冊 | 安見道中記 | 一冊 | 唐土名所の繪 | 一折 |
| 甲越勇士鑑 <small>前後</small> | 二冊 | 諸職雛形 | 一冊 | 花鶴百人一首 | 一冊 |
| 女大學玉文庫 | 一冊 | 女庭訓往来 | 一冊 | | |



天下 登龍丸 會物一切一包 代百文

此丸就丸の天下一方我家の秘法にして病後留飲一服此丸
あり登丸十年廿年産後少くは一腹痛之品も成りく又腸
中へ氣がたたり腹痛散散も成りく成後も腹中へ氣がた
りて丸の一巡り数年來の程迄に二巡りも利ある所の言ふ
如く産後と治し候候止りぬ飲の物と困る病令くいぬ言
英法見よ小園くん丸の産後と謂ひ丸を巡りし脾胃
潤氣力をはしむると云ふ言ふ六やう小丸を言ふと費

病延命する者、救方、用ひ試て、其功の大小を知る、古今、其
帝代、不忠候の外、業、其功、尤も、多し

一 十年廿年、爲良

一 勞瘁の候

一 訂風の候

一 かしらせり

一 惺候、せりつり

一 疔飲、取捨、候

一 疔飲、小血、交り

一 疔飲、出ても、出ず

一 疔飲、は、心、神

一 小兒、百日、咳

一 疔飲、出ても、出ず

一 疔飲、出ても、出ず

一 疔飲、出ても、出ず

一 疔飲、出ても、出ず

一 疔飲、出ても、出ず

疔飲、出ても、出ず

疔飲、出ても、出ず

東叡山御書物所

江中下谷御成道
青雲堂英文藏製

| | | | | | | | | | |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 東叡山御書物所 | 出書物 | 出書物 | 出書物 | 出書物 | 出書物 | 出書物 | 出書物 | 出書物 | 出書物 |
| ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... |

慶應二年

信

高井郡

碓田村

若林

南唐

一

卷